

平成29年度 学校評価

江津市立江東中学校

評価期間:平成29年4月1日～12月31日 評価基準 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 全く達成できなかった

評価	領域	中期目標	短期目標	担当	具体的な取組	○評価の観点 ●評価の指標	教職員評	達成状況	改善策と今後の方針	学校評価委員	
										評価	所見
学習指導	確かな学力の育成	確かな学力の育成を図り、進路保障・学力保障の充実に努める	特別支援教育を踏まえた「わかる授業」の推進＝ユニバーサルデザインによる授業づくり	研究	・特別支援教育委員会を設置し、支援の必要な生徒及び支援の方法について協議し、全校体制で特別支援教育の推進に努める。	○ユニバーサルデザインによる「わかる」授業づくりを行ったか。 ●教職員アンケート、生徒アンケート肯定的評価80%以上	B	生徒アンケート Q1肯定的評価85% 校内委員会を学期に一度開催し、情報交換を行い、共通理解を図った。しかしながら、ユニバーサルデザインによる授業について研修を行うことができなかった。	・困難を抱える生徒の実態把握と手だてについて、全職員で共通理解を図り、学習支援員やT2と連携し、積極的な支援を行っていく。 ・専門機関と連携し、研修の場を持つ。	A	・生徒の得意なことを見つけて、自信を持たせてやるのが、大切。 ・視覚教材による支援を。
			基礎・基本の徹底		・校内研究授業、授業公開週間(毎月)などを通して、全教科で実施する。 ・一人1回研究授業、授業研究会を持ち、各自が工夫、改善を行う。	○授業改善アクションプランに沿った具体的な取組を行ったか。 ●教職員アンケート肯定的評価80%以上	C	12月末の段階で、研究授業ができていない教科があった。公開週間への取組も不十分であった。	・年度当初の計画に従って、確実に全教科で研究授業を行う。 ・教務と連携し、週案の確認時に公開週間を明確に示す。	B	特になし
			家庭学習習慣の定着		・予習課題等、授業と関連した内容の課題を出す。 ・自主学習ノート以外にも、個々の実態に即した課題の出し方を工夫する。 ・原則週一回の「明窓」視写に取り組む。	○家庭学習が定着できたか。 ○自主学習ノートや「明窓」の視写ができたか。(自主学習ノートコンテスト、昼の学習会等) ●教職員アンケート、生徒アンケート、保護者アンケート肯定的評価80%以上	C	生徒アンケート Q3肯定的評価93% Q7肯定的評価79% 保護者アンケート Q5肯定的評価78% 自主学習ノートによる家庭学習は定着しつつある。見本となるノートを毎月展示し、意欲の高揚を図った。 「明窓」の視写の添削者が、国語教員に限られたため、負担が大きかった。	・各教科から出される課題について、定期的に実態把握を行う。(学期に1回) ・「明窓」視写の添削は、学年体で添削を担当するシステムを作る。	B	・学習時間に個人差があるが、中間層を伸ばす取組により、底上げを図ることが、大事。
			言語活動(コミュニケーション力)の充実		・各教科の授業や活動でのペア学習やグループ学習など、各自で工夫した取組を行う。	○ペア学習やグループ学習はうまく機能できたか。 ●教職員アンケート、生徒アンケート肯定的評価80%以上	B	生徒アンケート Q9肯定的評価85% 各教科において、主体的・対話的で深い学びが行われるよう、ペア学習やグループ学習を取り入れた。	・各自の取組を公開授業等で検証しながら、更に生徒の深い学びにつながるよう、授業改善を進める。	A	特になし
			学校図書館の活用を図る		・調べ学習や言語活動に学校図書館を活用し、司書教諭や図書ボランティアと連携を図る。	○各教科で年1回以上、学校図書館を利用したか。 ●教職員アンケート肯定的評価80%以上	C	授業中の調べ学習の際、PC教室の利用はあったが、図書館を活用することは少なかった。	・司書の勤務時間の延長、学習に適した図書館環境の整備を図る。	B	・司書ボランティアが、昼休みしか常駐していないので、致し方ない。
			朝読書の充実		・ルールを明確にし、朝読書の充実を図る。	○貸出図書数の増加。 ●一人当たりの貸出数が5冊増。	B	年度当初、朝読書の実施要項を示したことで、全校統一したやり方で実施することができた。 生徒も自主的に朝読書に取り組んでいた。	・さらに生徒の選書の幅が広がるように、蔵書整備を進める。	A	特になし
ふるさと教育	ふるさとへの愛着と誇りを育てる教育活動を実施する	ふるさと・キャリア教育推進事業を充実させる	勝田	地域芸能等体験活動	○自己課題を持たせ、講師との交流を通して課題解決を図らせることができたか。 ●生徒の振り返り、感想文	A	生徒アンケート Q12肯定的評価83% 新たな講師を迎えることもでき、充実した活動となった。 総合的な学習のねらいを達成できるよう、活動前後の授業の在り方を工夫した。	・本年度は、事後活動に時間を取り、まとめを充実することができた。来年度も継続していきたい。 ・課題追求においては、より深い学習となるよう、検討が必要である。	A	・学んだことを卒業後も地域で続けてくれたら嬉しい。 ・子どもの創造性を活かしながらの活動になるとよい。 ・課題追求や自主的に学ぼうとする意欲が芽生えつつある。	
		地域講師による「ふるさと江津の食材を活かした料理教室」を実施する。		○江津の食材を意識し、主体的に調理実習に取り組むことができたか。 ●生徒の振り返り、感想文	A	地域講師のご協力により、各学年、1回ずつ料理教室を実施することができた。 生徒達は、江津の食材の良さを知ることができ、いきいきと調理実習に取り組んだ。	・今年度初めて実施したが、良い活動ができたので継続したい。	A	特になし		
		企業訪問		○自らの進路選択に向けて主体的に体験活動に取り組むことができたか。 ●生徒の振り返り	B	3年生は松江、2年生は大阪、1年生は地元、それぞれの地に於いて、企業の方々からのお話を意欲的に聞き、将来について考えるきっかけとなった。	・今後も継続して取り組み、地元の企業についての理解を深め、主体的に進路選択をできるような学習を進めていく。	A	特になし		
		黒松海岸清掃		○海岸清掃を通して、地域の自然を愛し、地域に貢献する気持ちが育まれたか。 ●生徒の「振り返り」から	A	生徒振り返り肯定的評価100%。 地域の持つ観光資源を維持することの大切さに気づくことができた。	・黒松自治会からの要望もあり、地域と連携しながら、継続的な活動にしていきたい。	A	特になし		
豊かな心や感性の育成を図る	明確なねらいを持ったキャリア教育	土井	学校行事(生徒会行事)における、キャリア教育の視点を設ける。	○年間を通じ、生徒のキャリア形成はなされたか。 ●教職員アンケート、生徒アンケート、肯定的評価80%以上	B	生徒アンケート Q21肯定的評価93% 保護者アンケート Q9肯定的評価83% 生徒アンケート、保護者アンケートともに達成目標に到達した。今後も継続して学校行事においてキャリア教育の視点を持って取り組んでいく。	・各学年で段階的にキャリア教育を実施し、生徒の進路保障につなげていく。 ・各学年において明確なキャリア教育の視点を設け、生徒の進路保障、進路実現に向けた取り組みを継続していく。	A	特になし		
	食育と健康教育の推進		栄養教諭による食の学習、朝ごはんウィークの取組をする。 学校保健委員会で家庭での献立の工夫について考える。	○自らの健康づくりを考え、主体的に朝ごはんウィークに取り組むことができたか。 ●生徒の振り返り ●保護者の感想	B	食育講演会を保護者対象と生徒対象、2回実施した。 あさごはんウィーク中のみそ汁づくりは少なかった。しかし、みそ汁の良さは取組の工夫により、よく理解していた。	・現代社会における食の大切さ・課題等を今後も継続して指導し、意識を高め、実践力を育てたい。	A	特になし		

平成29年度 学校評価

江津市立江東中学校

評価期間:平成29年4月1日～12月31日 評価基準 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 全く達成できなかった

評価	領域	中期目標	短期目標	担当	具体的な取組	○評価の観点 ●評価の指標	教職員評	達成状況	改善策と今後の方針	学校評価委員		
										評価	所見	
生徒指導・進路指導	豊かな人間性・社会性	人権・同和教育の推進	道徳教育の充実	室安	別業の作成、授業公開、出前講座を実施する。	○教育活動全体を通じて、教職員間の共通理解のもとで、道徳教育を充実させることができたか。 ●(生徒による)振り返り 意識調査など	B	別業作成、出前講座実施(夏休み中の職員研修として)はできたが、授業公開ができなかった。	・次年度に向けては、別業がしっかりと実際に活用できるもの改善し、併せて授業公開を実施する。	B	・親が、いじめはいけないという雰囲気を作って見せてやる、いけないことはいけないと言ってやるのが、大事。 ・家庭と連携することが大切。 ・親の背中を見て、子どもは育つの	
			安心して生活・学習できる居場所としての集団づくりを行う	生徒指導	SCを活用した人間関係づくりの授業を行う。	○SCを活用した人間関係づくりの授業を行ったか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上	B	保護者アンケート Q6肯定的評価83% 各学年ともSCを活用した人間関係づくりの授業を実施し、生徒の人権意識を高めることができた。	・学年の実態に合わせた内容で実施しているが、さらに発達段階なども考慮しながら、3年間を見通した系統的な取り組みにしていける。	A	特になし	
			職員研修を通して、人権・同和教育への資質の向上を図る	加藤	夏休み中の小中合同研修や同和問題学習の授業公開・参観を実施する。	○研修、授業公開・参観を行ったか。 ●各学年年1回以上の同和問題学習の公開と1回以上の参観。	B	小中合同研修は進路保障の観点から高校での話を聞いて良かった。同和問題学習の授業公開は2学期に2年生の歴史を公開、小学校からも参観してもらったが、校内での周知ができていなかった。	同和問題学習の授業公開は計画を校内、また東小学校に周知する。	A	特になし	
			進路保障に向けた取組		不登校生徒や学習に困難を抱える生徒に対して、昼休みや放課後および長期休業中に個別の補充指導を行うなどして、学力保障に努める	○夏休みの学習会、コミュニティセンターでの学習会、冬期の放課後学習会を開催したか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上	B	夏休みの学習会を学校とは別に、公民館でも実施した。その結果、不登校生徒も参加することができた。 3年生においては、高校入試に向けた冬期学習会を開催した。	・夏休みの学習会は、人権・同和教育推進者を中心に運営したが、学校全体で共通理解を図り、全職員で計画的に行っていく。	A	・不登校生徒が、何か没頭できることに対して、地域が協力できることがあるといい。	
			指導体制の確立		校内委員会(いのちいきき推進委員会)を核として学年部、生徒指導部等と連携し、全校体制を確立する。	○校内委員会を定期的、また必要に応じ随時行ったか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上	B	1学期は、推進委員会は実施したが、定期的開催は難しかった。	・チェック表を作成し、スクリーニング的に行う等、体制づくりを強化していく。	B	特になし	
		生徒指導の充実	一人一人の生徒理解を基盤にした個別指導の徹底	生徒指導	人権アンケートやアンケートQ-U結果を分析し、個々の生徒指導にあたる。	○人権アンケートやアンケートQ-Uの回答から、気になる生徒を把握するなど、いじめ防止に取り組むことができたか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上	B	保護者アンケート Q8肯定的評価71% Q12肯定的評価71% 気になる生徒については、呼び出しによる面接やSCとの面談を行った。	・各学年部で人権アンケートやQ-Uの分析をし、不安を抱えている生徒と教育相談等を継続しておこなう。	B	特になし	
			規範意識・基本的な生活習慣の定着		あいさつ 個人の持ち物の整理整頓 交通安全のルール、自転車の乗り方	○生徒の規範意識、基本的な生活習慣が身についたか。 ●生徒、教職員アンケート、肯定的評価80%以上	B	生徒アンケート Q20肯定的評価100% 生徒指導部を中心に生徒会を動かして、ロッカーや下駄箱の整理整頓を重点的に指導した。	・整理整頓が身についてきた。 ・あいさつや自転車の乗り方なども継続して指導する。	A	特になし	
			対教職員、対生徒間の信頼関係の構築		縦割り班による清掃活動。 体育祭や文化祭、修学旅行などの学校行事。	○他学年の生徒や、先生と交流しながら、積極的に活動に取り組んでいたか。 ●生徒、教職員アンケート肯定的評価80%以上	A	教職員アンケート肯定的評価100% 掃除の縦割り班が定着し、きちんとできていく。 生徒達の体育祭や文化祭に意欲的に取り組んだ。	・縦割り班の適用(黒松海岸清掃活動、救急救命法講習、人権集会)を多くすることで、生徒間のつながりが深まる。今後も意図的に適用を図っていく。 ・行事においては、新たな取組が活性化につな	A	特になし	
		特別支援教育	特別支援教育の推進を図る	職員研修を通じて特別支援教育への理解を深め、効果的な支援を行う	室安	実態把握、訪問指導、校内委員会などを通じて効果的な支援方法を検討する。	○学習支援チェック表や実態把握で得られた情報をもとにして、支援の必要な生徒に対して効果的な支援ができたか。 ●学習支援チェック表での記述	B	実態把握をし、校内委員会で周知した上で、支援員に支援の方法を伝えることができた。	・次年度に向けて、コーディネーターと各教科担当並びに学習支援員の連携をより密にして、支援の方法を検討していく。	A	特になし
				専門機関、市教委や保護者等との連携を図る	市教委等からの訪問指導を受ける。	○訪問指導により、特別支援教育を推進することができたか。 ●生徒の見取りによる記述。	B	特別支援教育充実事業を活用し、学期に一度、訪問指導を受け、指導に活かすことができた。	・今後も継続して効果的に活用できるようにする。	A	特になし	
				保護者との連絡を密にとる。	○保護者との連携は十分に図れたか。 ●教職員アンケート、保護者アンケート、肯定的評価80%以上	B	保護者アンケート Q1肯定的評価90% 特に、進路選択においては、個人面談や保護者面談を細かく行った。	・新たに特別支援学級に入級する生徒について、次年度への引き継ぎ、支援方法、教育課程などの説明をしっかりとしていく。	A	特になし		
		危機管理体制の確立	危機管理体制の確立	勤務規律の確保と教職員の危機管理能力の向上を目指す研修の充実	教頭	年間を通じた研修実施計画に基づいた研修を実施する。	○勤務規律の確保がなされ、危機管理能力が向上したか。 ●教職員アンケート、保護者アンケート、肯定的評価80%以上	B	年度当初、研修計画を立て、それに添った参画型の研修を行った。 また、避難訓練では、江津消防署の協力を得て、より実践的な訓練を行うことができた。	・長期休業中に、研修のための時間を確保することで、集中的な研修が可能となる。次年度も引き続き、計画する。 ・外部指導者の招聘により、より客観性を持たせることができるので、検討する。	A	特になし
校務分掌を生かした学校運営の徹底	各務分掌部会の定期的な開催とミドルリーダーの報告・連絡・調整を徹底する。			○ミドルリーダーを中心とした組織的な取組ができたか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上	B	ミドルリーダーを中心に組織的な分掌運営ができた。	・教務と相談し、分掌部会の定期部会を確実に開催する。	A	特になし			
環境の整備と充実	安全点検を確実にし、速やか修繕をする。			○毎月、安全点検を実施できたか。不良箇所については、修繕や対応を考えたか。 ●安全点検を年間10回以上実施。	A	安全点検を年間10回以上実施することができ、可能な範囲で修繕を計画的にしていた。	・月に一度の安全点検の実施、まとめ、市教委への報告により、速やかな修繕が行われている。今後も続けていく。 ・2階廊下(中庭側)窓の転落防止柵設置について、市教委に申請を続けていきたい。	A	特になし			

平成29年度 学校評価

江津市立江東中学校

評価期間:平成29年4月1日～12月31日 評価基準 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 全く達成できなかった

評価	領域	中期目標	短期目標	担当	具体的な取組	○評価の観点 ●評価の指標	教職員評	達成状況	改善策と今後の方針	学校評価委員	
										評価	所見
組織運営・保護者や地域との連携	信頼される開かれた学校づくり			教頭	職員作業日を年2回設定し、集中的に整備する。	○環境の整備がなされたか。 ●職員作業日を2回実施。	A	今年度は、蛇腹倉庫と新倉庫の整理整頓を行うことができた。	・市教委へ、運搬車の利用回数を学期に1回できるように要望する。	A	特になし
				筆谷	備品台帳による管理を徹底する。	○備品点検を実施できたか。 ●年に1回実施。	A	夏季休業中に備品点検を実施した。	・今後も廃棄について引き続き行い、教育環境を整えていきたい。	A	特になし
	家庭・地域・関係団体との連携を図る	開かれた学校として、説明責任を果たし、連携を深める	学年主任	学校だより、学年通信を充実させる。	○各学年からの情報発信は、十分であったか。 ●保護者アンケート、肯定的評価80%	B	通信の回数は少なかったが、生徒の学校での活動を確実に伝えた。保護者アンケート Q1肯定的評価90%	・学校行事や学級での行事ごとに、生徒の活動を伝えることが出来ている。今後も引き続き行う。	A	特になし	
			教頭	学校評価の周知方法を工夫する。	○周知方法、時期、回数。 ●教職員アンケート、保護者アンケートの記述による。	B	保護者アンケート Q1肯定的評価90% H27年度82%→H28年度84%と年々向上している。 今年度は、保護者アンケート結果を「校長室だより」でお知らせした。	・HPへの掲載について文書等で周知する。 ・PTA役員会やPTA総会で説明する時間を設ける。	A	特になし	
		江津東小学校との連携による教育活動	加藤	小中合同学習会、小中合同人権集会の開催。	○交流しながら、自分たちの課題について考えていたか。 ●生徒の振り返り、教職員アンケート、肯定的評価80%以上	A	実施できた。学習会では、交流することを楽しみながら、質問に答えたり、説明をしたりしていた。	・継続的な小中合同事業により、中1ギャップは大きくない。継続が、重要。 ・人権集会は、小学生も主体的に参加できるような工夫をする必要がある。	A	特になし	
			依	小中合同奉仕作業の実施。	○積極的に奉仕作業に参加していたか。 ●教職員アンケート、肯定的評価80%以上		今年度実施なし。	・事業を廃止した。 ・生徒のボランティアによる地域貢献の在り方を検討する。			
		家庭・地域との信頼関係の構築		教頭	学校への要望等に適切に対応し、地域行事へ積極的に参加する。	●保護者アンケート、肯定的評価80%以上	B	保護者アンケート Q2肯定的評価90% 家庭訪問、期末懇談、学校評価等で要望を集約した。 ふるさと教育や生徒会活動を通して、地域貢献活動を行った。	・今後とも全職員が、それぞれの持ち場で、保護者・地域にアンテナを張り、信頼関係構築に尽力していく。	A	特になし